

公開授業②

13:25~14:30

13:25~14:15	(3年生) わかば学園のこと “何でも聞いてください” 1-3・1-2・1-1	(2年生) ポスターセッション “自分が成長した瞬間” 2-3・2-2・2-1
14:15~14:30	休憩	



(2年生) ポスターセッション “自分が成長した瞬間”

教室
(2-1)

- ♡私が変わった理由
- ♡自分と感情
- ♡部活で楽しかったこと
- ♡パン工房最高！！
- ♡校内実習が第2希望になっての今の気持ち

教室
(2-2)

- ♡人前で明るく話が出来ました
- ♡大っ嫌いだったビルメン
- ♡ビルメンで成長したこと
- ♡成長した瞬間

教室
(2-3)

- ♡根性、負けん気が付いた部活
- ♡挫折からの成長
- ♡自分の課題の成果
- ♡学校に入って上達した自分の絵

(3年生)
わかば学園のこと
“何でも聞いてください”

教室
(1-1)

- ☆校内実習 (OS)
- ☆CC・CG (キャリアデザイン相談会)
- ☆委員会・部活動

教室
(1-2)

- ☆校内実習 (ビルメンテナンス)
- ☆一般教科
- ☆現場実習

教室
(1-3)

- ☆校内実習 (パン)
- ☆全般
- ☆A部門交流

全体会②

14:30~16:45

14:30~15:00	公開授業①・②講評 植草学園大学 准教授 菊地 一文氏
15:00~16:30	パネルディスカッション 地域はもう一つの教室 ～若葉台とともに歩んだ6年間のキセキ～
16:30~16:45	質疑応答・挨拶（校長）
研修会議室	



新学習指導要領と キャリア発達を支援する教育の充実

植草学園大学発達教育学部 准教授
広島大学大学院教育学研究科 客員准教授
菊地 一文

現行学習指導要領における キャリア教育の推進による3つの成果

- ①「地域協働活動」の推進と充実
→学校内完結に留まらない社会に開かれた教育活動
- ②「育てたい力」に基づいた授業及び教育課程改善
→4領域8能力、基礎的・汎用的能力、知的障害のある児童生徒のキャリアプランニング・マトリックス等
- ③「キャリア発達」の理解と「内面の育ち」への注目
→振り返りと言語化、対話の重視
本人の「思い」や「願い」への着目

学習指導要領改訂の方向性



※高等教育については、些末な事象的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題となっており、そうした点を克服するため、重要養護の整理等を含めた高大接続改革を進める
※平成29年度新特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領説明会説明資料より引用

学習指導要領改訂において 挙げられた4つのキーワード

- ・社会に開かれた教育課程
- ・育成を目指す資質・能力
- ・主体的・対話的で深い学び
（アクティブ・ラーニングの視点）
- ・カリキュラム・マネジメント

➡ 4つのキーワードは総合に関連しており、
これまでのキャリア発達支援の知見と密接に関連

社会に開かれた教育課程

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)
中央教育審議会 平成28年12月21日

第4章 学習指導要領等の枠組みの改善と「社会に開かれた教育課程」

1. 「社会に開かれた教育課程」の実現

※以下、原文の抜粋(下線は筆者)

○これからの教育課程には、社会の変化に目を向け、教育が普遍的に目指す根幹を堅持しつつ、社会の変化を柔軟に受けとめていく「社会に開かれた教育課程」としての役割が期待されている。このような「社会に開かれた教育課程」としては、次の点が重要になる。

- ①よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ②子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育の目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

-5-

育成を目指す資質・能力

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)
中央教育審議会 平成28年12月21日

第5章 何ができるようになるか ー育成を目指す資質・能力ー

※以下、要旨の抜粋(下線は筆者)

○これまでの資質・能力の考え方を分析し、以下の三つに大別

- ①教科等の枠組みを踏まえながら、社会の中で活用できる力の在り方
- ②教科を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用される力
→例: 言語能力の育成、情報活用能力(情報技術を手段として活用する力を含む)の育成
- ③現代的な諸課題に対応できるようになるために必要な力の在り方
→例: 健康・安全・食に関する力、主権者として求められる力、新たな価値を生み出す豊かな創造性、グローバル化の中で多様性を尊重するとともに～。

○資質・能力に共通する要素は、知識に関するもの、スキルに関するもの、情意(人間性など)に関するものの三つに大きく分類されているとし、以下に整理

- ①何を知っているか、何ができるか(生きて働く「**知識・技能**」の習得)
- ②理解していること・できることをどう使うか
(未知の状況にも対応できる「**思考力、判断力、表現力等**」の育成)
- ③どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか
(学びを人生や社会に生かそうとする「**学びに向かう力・人間性等**」の涵養)

-6-

育成を目指す資質・能力の3つの柱



※平成29年度新特別支援学校幼稚園教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領説明会説明資料より引用

-7-

主体的・対話的で深い学び

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)
中央教育審議会 平成28年12月21日

第4章 学習指導要領等の枠組みの改善と「社会に開かれた教育課程」

2. 学習指導要領等の改訂の方向性

(3)「主体的・対話的で深い学び」の実現(「アクティブ・ラーニング」の視点)

第7章 どのように学ぶか ー各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実ー

※以下、原文の抜粋(下線は筆者)

○「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、特定の指導方法のことでない。学校教育における教員の意図性を否定することでもない。人間の生涯にわたって続く「学び」という営みの本質を捉えながら、教員が教えることにしっかりと関わり、子供たちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶えず考え、授業の工夫・改善を重ねていくことである。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。
- ③ 各教科等で習得した概念や考え方を活用した「**見方・考え方**」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

※下線は筆者による

-8-

「言語化・対話」について考える

①会話と対話の違い

→相手の「思い」「考え」に応じ、理解しようとするのが前提となる？「聴く」「伝える」こと双方を大切にする。言語活動を質的に見る必要性がある？

②自己内(で起きている)対話(「思い」や「願い」)への着目

→他者を含む外界からの刺激に対して起こる疑問、共感、推察、確信等...

③刺激の1つとしての「問い」の重要性

→「できたかどうか」から「なぜ・なんのため」「どうして」「どうしたい」に
→距離を置いて「見る」ことや「立場(役割)を変える」ことで気づけることも

④心が動く豊かな体験と「振り返り」

→「できた」「認められた」「人の役に立った」
→相手の求めに応じる、共同解決する、つまずきが解決される等

⑤対話を促進させ、課題解決につなげる具体的方策

→環境設定や構造化、可視化、ツール、サイズ、時間や回数の指導計画、
→ファシリテーションスキルへの着目、リーダーとフォロワーの関係

-9-

「深い学び」について

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)中央教育審議会 平成28年12月21日

③ 各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見いだして解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。



特別支援学校小・中学部学習指導要領等 文部科学省 平成29年4月

③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか

※下線は筆者による

-10-

「深い学び」はどのような場面で起きているのか？

- ・「時間的な流れ」の中で起きている(指導計画)
- ・各教科等横断的に捉えた時に起きている(見方・考え方)
- ・「成功」だけでなく「失敗」から得られることがある
- ・教師が「教えたこと」だけでなく、「学んでいる」ことがある
- ・振り返りによって「深い学び」に気づくことがある

※「深い学び」は毎時間全員に起きているわけではない。
組織的・計画的な取組の中で、相互作用による個の「育ち」として起こる。

-11-

カリキュラム・マネジメント

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)中央教育審議会 平成28年12月21日

第4章 学習指導要領等の枠組みの改善と「社会に開かれた教育課程」

2. 学習指導要領等の改訂の方向性
 - (2) **教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す**
「カリキュラム・マネジメント」の実現

カリキュラム・マネジメントの3つの側面

※以下、原文の抜粋(下線は筆者)

①各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。

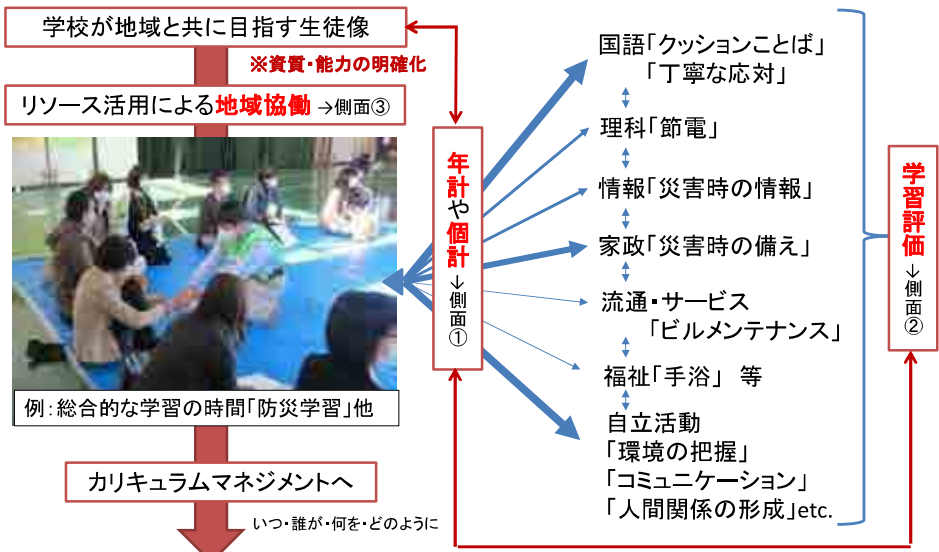
②教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。

③教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること

※上記3点のほか、特別支援教育については「個別的教育支援計画」及び「個別の指導計画の活用についても柱の1つとして挙げられていることに留意。

-12-

「要」となる活動から考えるカリキュラム・マネジメント



年間を通して、実践に基づいて往還的に各教科等間のつながりの把握と関連付けることにより教育課程の改善を図っていく。

「個の学び・育ち」から考えるカリキュラム・マネジメント

—なぜ・なんのため学ぶのか—

インターンシップの事後指導におけるある生徒の例

・「実習先に遅刻する」という失敗経験



・振り返りと対話

→「遅刻したくない」という思い

→遅刻しないために必要なことを検討



・学ぶことの必要性

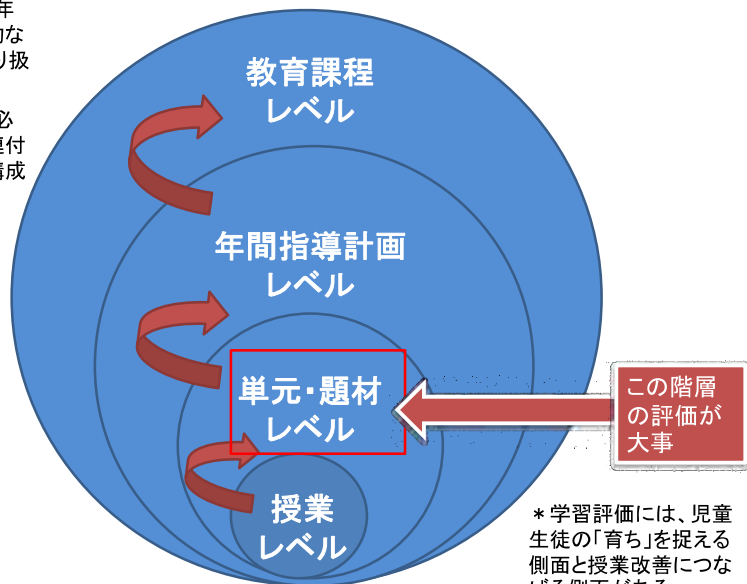
→各教科等において身につけたいこと

遅刻しないために、「国語」で道に迷った時の質問の仕方、「数学」で先を見通すための時間の計算の仕方、「社会」で地図の読み方を学びたい

* 児童生徒の生活年齢を考慮した発展的な内容が系統的に取り扱われているか。

* 児童生徒の学び必然性を考慮した関連付けがなされた単元構成となっているか。

学校全体で教育課程の見直しを



学習評価の蓄積が教育課程改善につながっていく



キャリア教育の充実を図るために

パネルディスカッション

地域はもう一つの教室 ～若葉台とともに歩んだ6年間のキセキ～

司会：菊地一文植草学園大学准教授

パネラー
わかば学園側

川口信雄様：現・(株)ゆたかカレッジ 顧問
元・学校開設主事・前横浜わかば学園研究主任

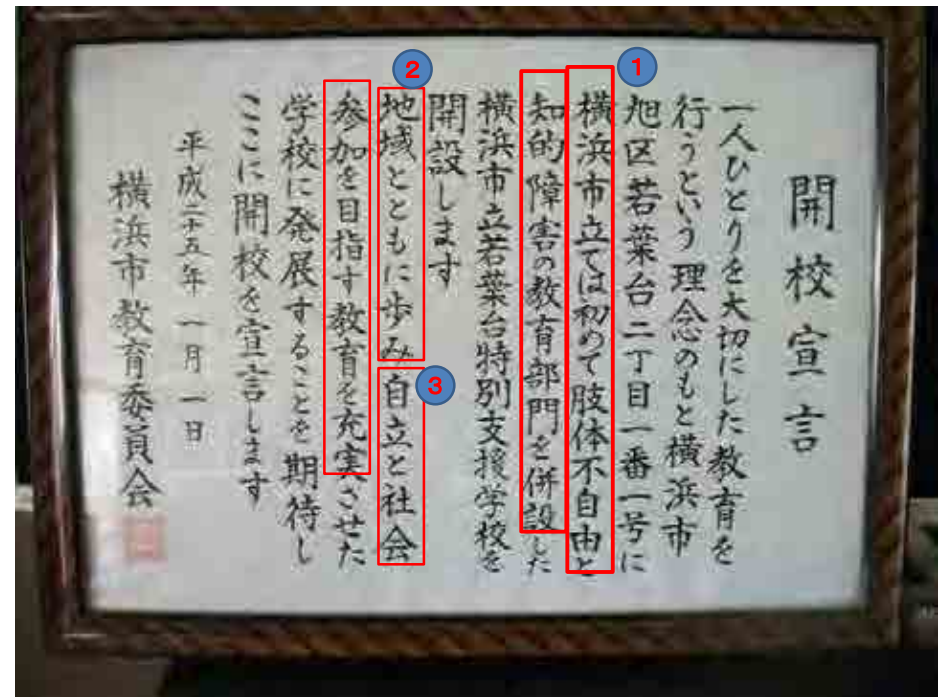
中野嘉樹様：現・横浜市立共進中学校 副校長
前・横浜わかば学園教務主任

地域側

田中政光様：現・若葉台第7住宅管理組合 顧問
元・若葉台第7住宅管理組合 理事

安田宏幸様：現・横浜市交通局自動車本部 若葉台営業所
教育指導係長
元・横浜市交通局自動車本部 若葉台営業所
管理係

掛札英之様：現・社会福祉法人 創生会 特別養護老人ホーム
あだちホーム 訪問入浴サービス オペレーター
元・横浜市若葉台地域ケアプラザコーディネーター



わかば学園コンセプト (開校宣言にすべて盛り込む)

- ①肢体不自由教育部門と知的障害教育部門の連携を重視
- ②地域はもう一つの教室
- ③キャリア教育を中核とした教育課程

コンセプト1 肢体不自由部門との連携を重視

- ・ 医療的なケアの必要な
- ・ 言葉による意志伝達の難しい
- ・ 車いすの子どもたち

パン工房
昼休み交流
行事交流
清掃委託

自然な形でのおふれ合いを通して
お互いに学び合い成長したい！
横浜わかば学園の児童生徒として

新治時代から若葉台からのボランティアが続いていた！

若葉台コンセプト2

地域はもう一つの教室

- ①市バスの車内清掃 カフェわかば
- ②パン工房：地域交流室でのパン販売
- ③名刺やポスターチラシ印刷
- ④特別支援学校初のコミュニティハウス

地域の方々と積極的に交流し、「働くこと」や「働く喜び」を実地に学んでいきます。

Nobuo Kawaguchi

校舎平面図（2F）

もともと陶芸室の予定だった場所をパン工房に

パン工房(市内初)



壁や天井を平滑仕上げるに

若葉台コンセプト3

キャリア教育を中核とした教育課程

- 1 校内実習（OS・ビルメン・パン工房）
- 2 ねらいを定めた現場実習
 - 1年 働くことを体感する実習 **若葉台**で
 - 2年 自分の適性を知る実習
自分の適性を見極める実習
 - 3年 就労に向けた実習①②
- 3 総合的な学習（CC・CG）

校内実習や現場実習で学んだことを整理し、学校の学習や生活につなげる

Nobuo Kawaguchi

公開研究会へのご参加ありがとうございました。



生徒作成5周年公式ロゴ



わかば学園公式キャラクター